

都市空間における街区内細街路の景観演出に関する研究

日本大学理工学部 学生会員
日本大学理工学部 正会員

○森 紗耶, 日本大学理工学部 正会員 岡田 智秀
田島 洋輔, 日本大学理工学部 非会員 落合 正行
日本大学理工学部 正会員 横内 憲久

1. 研究目的

都市空間において、いわゆる表通りのような広がりある空間から一步なかに入り込んだ街区内細街路は、横¹⁾によれば歩行による「見えがくれ」を、また上田²⁾はその複雑な空間構成を“ラビリンス(迷宮)”と称し、その空間内で歩行者を方向づける視覚要素“アリアドネーの糸”が重要であるとして、その独特の魅力を論じている。しかし、こうした街区内細街路において、歩行者の進路を何が決定づけ、どのような印象をもたらすかといった具体的な空間特性は明確になっていない。そこで本研究では、都市空間の街区内細街路における印象評価を捉え、その評価に影響する空間特性について明らかにすることを目的とする。

2. 研究概要

本稿では、居住空間と商業空間が混在する都心部の街区内細街路において、大通りから眺めたその外部景観と街区内で眺めた内部景観の双方から空間特性を捉えるために、東京都港区北青山地区を対象に、表1に示す景観調査を実施した。なお、本稿では街区内細街路の外部景観評価を論考する。

3. 結果および考察

図1は、大通りから眺めた全10ヶ所の街区内細街路の外部景観として、「入りたい」「見るだけで満足」「入りたくない」の3項目で評価した結果を、図2は各細街路の見通し距離や評価要素等の位置関係を、表2は「入りたい」とする細街路と「入りたくない」とする細街路の評価理由や評価対象となった細街路の諸元(間口幅、見通し距離等)についてそれぞれ示したものである。

表1 調査概要

調査期間	2016年8月12日(金)～9月27日(火)のうち平日5日間 11:00-16:00 (晴天)
調査対象地	東京都港区北青山3丁目地区に位置する10ヶ所の街区内細街路
調査対象者	日本大学理工学部 学生被験者 22名
調査内容	現地において細街路の入り口の印象を「入りたい」「見るだけで満足」「入りたくない」の3つで評価するとともに、外部景観の構成要素とその評価理由について記録させた。

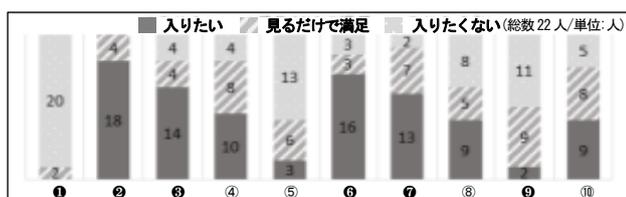


図1 街区内細街路の外部景観評価結果(丸数字は図2、表2のものに対応)

(1) 街区内細街路の外部景観評価結果

図1より、調査対象とした全10ヶ所の細街路のうち、「入りたい」とする評価が半数以上になったのは②、③、⑥、⑦の4つがあり、また「入りたくない」が半数以上となった細街路は①、⑤、⑨の3つであった。そこで以降は、これら7つの細街路に着目し、その評価要因を考察する。

(2) 街区内細街路の評価要因

1) 間口の広さ—表2より、「入りたい」と評価された全細街路は、共通して間口幅が3～4mであった。他方、「入りたくない」とする細街路は、間口幅が5～6mであった。これより、「入りたい」と認識される細街路の間口幅は4m以下となることから、細街路の空間的魅力を創出するためには間口幅は“狭さ”が重要となることを捉えた。

2) 見通し距離—表2より、「入りたい」と評価された4つの細街路のうち、③、⑥、⑦の3つは見通し距離が100m以上であり、その理由は細街路③では「見通しがきく(71%, 写真1)」、細街路⑥では「人が多く賑わいがある(75%, 写真2)」、細街路⑦では「先が見えず気になる(69%, 写真3)」であった。これらに対して、「入りたくない」と評価された3つの細街路のうち、①、⑤の2つは100m未満であり、その理由は共通して「何もなさそう(①:40%, ⑤:46%)」であった。また、図2より細街路⑨は、見通し距離が100m以上であるが、その間に被験者によって評価された店舗は一つも存在しない。これより、「入りたい」とする細街路の見通し距離は100m以上かつ店舗の存在が評価を左右することを捉えた。

3) 店舗—図2より、「入りたい」とする細街路②、③、⑥、⑦は、いずれも複数の店舗が評価されており、細街路②、⑦は視線の延長方向にみられる店舗の密集感や、それらの看板が集積する様相が評価されている。また、これらの細街路には、一般的に建築ファサードが印象的に見える視距離70m以内³⁾にカーテンウォール状の建築群(写真4)が存在しており、そのガラス面に反射する太陽光が狭小な細街路全体を明るく照らしていることから、その明るい街路状況が評価を高めたと考える。さらに、「入りたくない」という理由(表2)に「何もなさそう(①:40%, ⑤:46%, ⑨:64%)」や「住宅感が強い(⑨:36%)」が挙げられていることを踏まえると、都市部の細街路におけ

キーワード 街区内細街路, 都市空間, 外部景観, 内部景観, 印象評価

連絡先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河1-8-14 日本大学理工学部岡田研究室 TEL. 03-3259-0484 E-mail: csay13076@g.nihon-u.ac.jp

る空間的魅力は、閑静な佇まいよりも店舗のもつ賑わいや話題性が重要になると考えられよう。

4) 植栽 図1より考察した7つの細街路すべてで植栽の存在が認められた。しかし、表2より植栽に関する評価は細街路⑥で僅かに挙がるのみであり、他の細街路ではまったく挙げられていない。これより、植栽は細街路の外部景観評価を左右する直接的な要素になりにくいことが示唆される。

4. まとめ

以上より、街区内細街路の外部景観として「間口幅」

「見通し距離」「店舗・看板等の集積の重要性」を捉えた。一般的に街区内細街路は、狭小なほど暗さが強調されがちであるが、本調査結果より、店舗壁面に反射する太陽光の明るさの強調や、視線延長方向の店舗・看板等の密度強調など、狭小空間ゆえに強調される「明るさ」「店舗等密度」が街区内細街路の内部へと誘う空間特性となることを明確化した。

参考文献

- 1) 榎文彦：「見えがくれする都市」，鹿島出版会，1980.6.20
- 2) 上田篤：「ラビリンスの都市」，中央公論社，1983.5.26
- 3) 土木学会編：「水辺の景観設計」，p.124，技報堂出版，1988.12.1



図2 調査地区の概要と平面構成(丸数字は図1, 表2のものに対応)

表2 「入りたい細街路」と「入りたくない細街路」の評価理由 (N=母数, 各細街路の母数は図1の半数以上に達している人数 □ □ : 本文掲載事項)

細街路	入りたい細街路				入りたくない細街路																	
	②		③		⑥		⑦		①		⑤		⑨									
	クランク		直線		直線		直線		行き止まり		奥が細くなっている		直線									
間口幅/見通し距離	4m/35m		3m/234m		4m/136m		3m/107m		6m/39m		6m/50m		5m/127m									
外部景観の構成要素	建築物	評価理由	人	割合	評価理由	人	割合	評価理由	人	割合	評価理由	人	割合	評価理由	人	割合						
		お店が気になる	17	94%	何かありそう	4	29%	お店が気になる	9	56%	お店が気になる	5	38%	何もなさそう	8	40%	何もなさそう	6	46%	何もなさそう	7	64%
		建物に清潔感がある	1	6%	お洒落なお店が多い	2	14%	住宅街のような印象	1	6%	高級店が立ち並ぶ	2	15%	大きなビルの裏側	5	25%	面白くなさそう	2	15%	住宅感が強い	4	36%
				住宅街の印象が良い	1	7%	ごちゃごちゃして良い	1	6%	外観が統一された印象	1	8%	居酒屋が古い	3	15%	ビルの裏側な印象	2	15%				
	小計(N=18)	18	100%	小計(N=14)	7	50%	小計(N=16)	12	74%	小計(N=13)	8	61%	小計(N=20)	18	90%	小計(N=13)	11	84%	小計(N=11)	11	100%	
	道路	奥と縁さがありそう	6	6%	見通しがきく	10	71%	見通しがきく	1	6%	先が見えず気になる	9	69%	行き止まりが見える	9	45%	車通りが多い	7	54%	上り坂	3	27%
					通りが綺麗	1	6%	整備された道が綺麗	4	31%	道が狭い	1	5%	道が狭い	1	5%	突き当りがある		9%			
	付帯設備	看板が多い	3	17%	お店の看板がお洒落	3	21%	奥へ植栽が繋がっている	4	25%	魅力的な看板が多い	1	8%	看板が汚い	5	25%	看板が少ない	1	8%	落書き	8	55%
	空	空が見える	2	11%	空が広い	2	14%	空が開けている	1	6%	空が広い	1	8%	奥の門が閉鎖的	3	15%	電線が多い	3	23%	駐車場がある		9%
	賑わい	曲がる人につられた	3	17%	人が多賑わいある	4	29%	人が多く賑わいある	12	75%	人が多い	3	23%	人が少賑わいがない	1	8%	人が少賑わいがない	4	36%			
雰囲気	奥が明るい	2	11%	明るい	1	6%	明るい	1	6%	明るい	1	8%	暗い	6	30%	暗い	2	18%				
	小計(N=18)	2	11%	小計(N=14)	4	29%	小計(N=16)	14	88%	小計(N=13)	3	23%	小計(N=20)	6	30%	小計(N=13)	1	8%	小計(N=11)	2	18%	